

(案)

福岡市道路整備
アクションプラン2028

令和7年6月

道路下水道局

目次

1. 計画の概要	1
2. 福岡市の道路を取り巻く状況	2
3. 道路整備に関する意見	14
4. 「福岡市道路整備アクションプラン2024」について	17
5. 成果指標の達成状況	18
6. これまでの4年間における成果と課題	19
7. 今後の道路整備の基本的な考え方	21
8. 「福岡市道路整備アクションプラン2028」について	22
9. 主要施策	23
柱1：安全・安心でみんなにやさしい道づくり	23
柱2：都市の魅力・活力を高める道づくり	26
柱3：災害に強い道づくり	30
柱4：環境にやさしい道づくり	35
10. 計画期間における投資額	38
11. 抜本的な交通渋滞の改善	39
12. 都市計画道路において新たに着手する区間の選定	39
13. 事業に取り組む主な路線別区間	41
14. 用語解説	45

SDGs達成のための取り組み

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会を実現するために、2015年の国連サミットで採択された、2030年を期限とする17の国際目標です。

福岡市では、総合計画に基づく各施策の着実な推進により、SDGsの達成に取り組んでいます。道路下水道局においても、市民生活や都市活動を支えていくため、「福岡市道路整備アクションプラン2028」に基づく事業を推進する中で、SDGsの達成に取り組んでいきます。

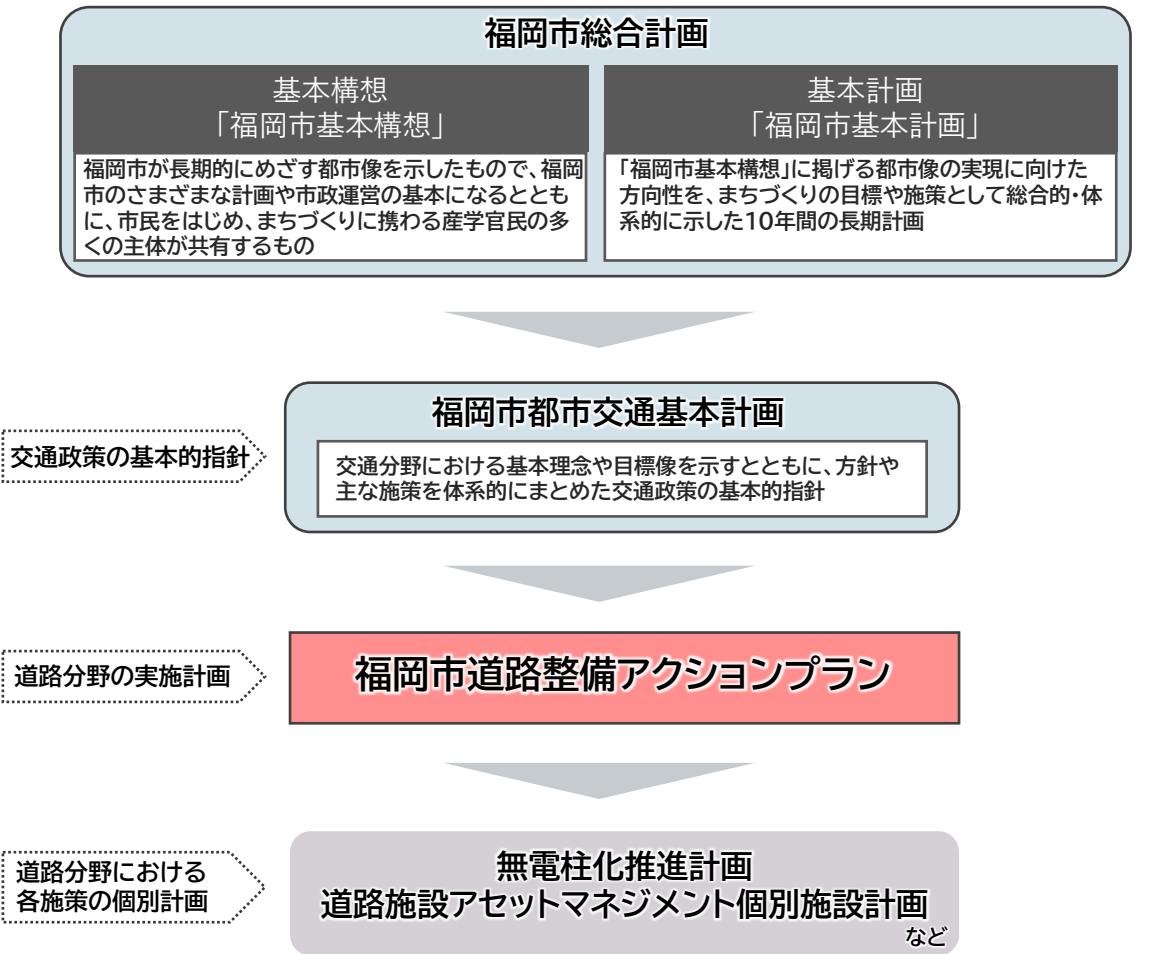
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1. 計画の概要

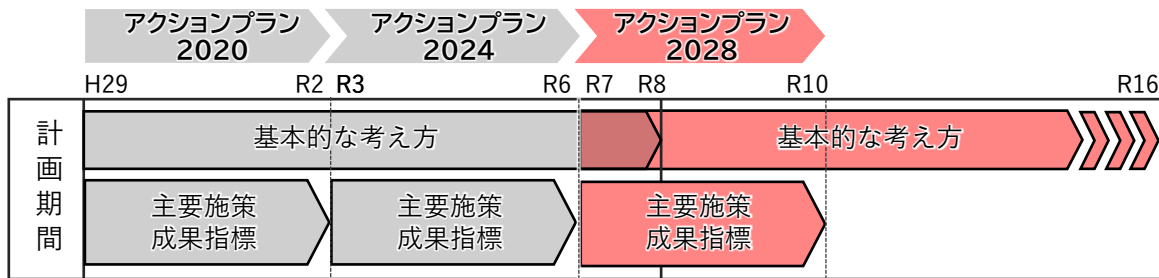
■ 位置付け

福岡市道路整備アクションプランは、本市の将来の健全な発展を促進するために策定する市政の総合計画(基本構想・基本計画)などに基づいて、道路分野における実施計画として、道路整備の基本的な考え方や主要施策・成果指標を示すものです。



■ 計画期間

基本構想で示した都市像の達成に向け、基本計画や実施計画を踏まえ、道路整備の進捗状況や道路を取り巻く状況、道路整備に関する意見などを勘案し、令和7年度から概ね10年間の「道路整備の基本的な考え方」及び令和7年度から4年間(令和7年度～令和10年度)の「主要施策と成果指標」を示すものです。



2. 福岡市の道路を取り巻く状況

人口、面積

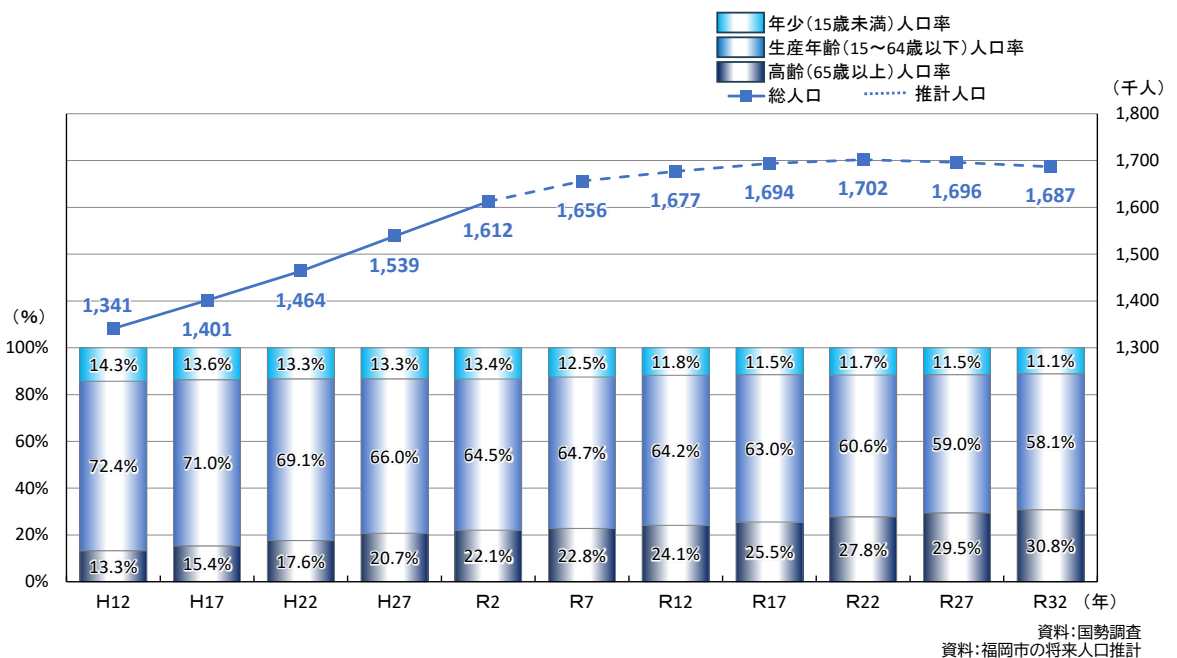
人口構造、面積

全国的に人口減少社会を迎える中、福岡市の人口は一貫して増加を続けており、令和6年で約165万人となっています。将来人口推計の予測では、今後も増加を続けるものの、令和22年頃に約170万人に達し、ピークを迎えると見込まれています。

総人口に占める高齢者(65歳以上)の割合が21%を超えて超高齢社会に突入しており、今後も高齢化率が上昇し続ける見込みとなっています。

また、総人口に占める障がい者の割合も増加傾向となっています。

【人口の推移、年齢別人口構成】

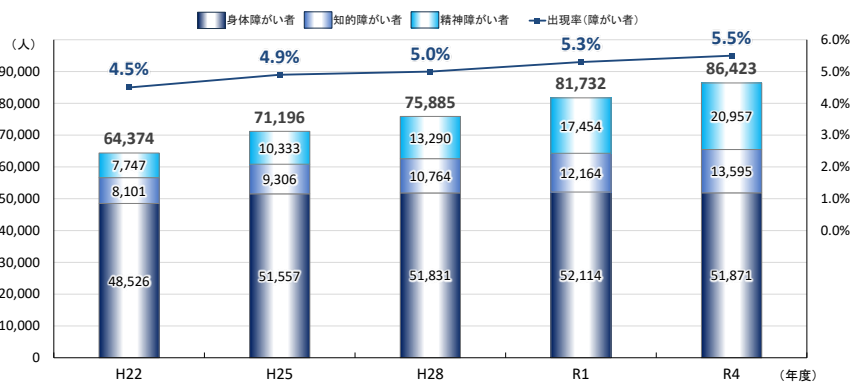


【福岡市の面積と人口】

	面積	人口
東区	69.46km ²	336,541人
博多区	31.62km ²	262,099人
中央区	15.39km ²	214,459人
南区	30.98km ²	271,394人
城南区	15.99km ²	134,082人
早良区	95.87km ²	224,615人
西区	84.16km ²	213,031人
計	343.47km ²	1,656,221人

R6.9.1現在
資料：福岡市推計人口

【障がい児・者数及び総人口に占める割合の推移】



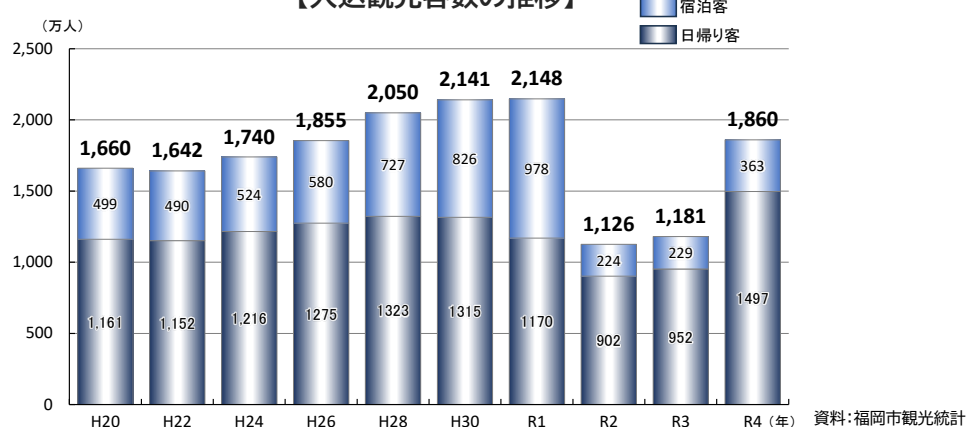
人流

■ 入込観光客、外国人入国者

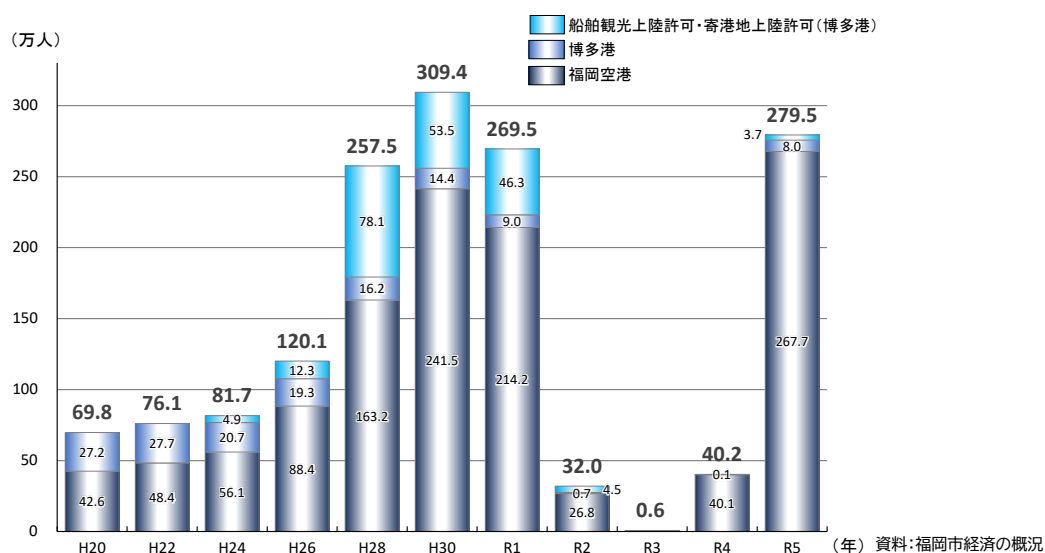
福岡市を訪れる観光客や外国人入国者は増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年以降大きく減少しました。

令和5年度は、福岡空港の旅客数が新型コロナウイルス感染症拡大前を超えるなど、徐々に交流人口が回復しています。

【入込観光客数の推移】



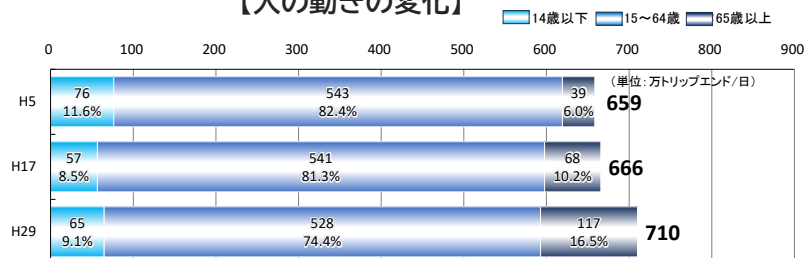
【外国人入国者数の推移】



■ 人の動き

トリップ数全体が増加する中、年々、高齢者(65歳以上)の動きが増加しています。

【人の動きの変化】

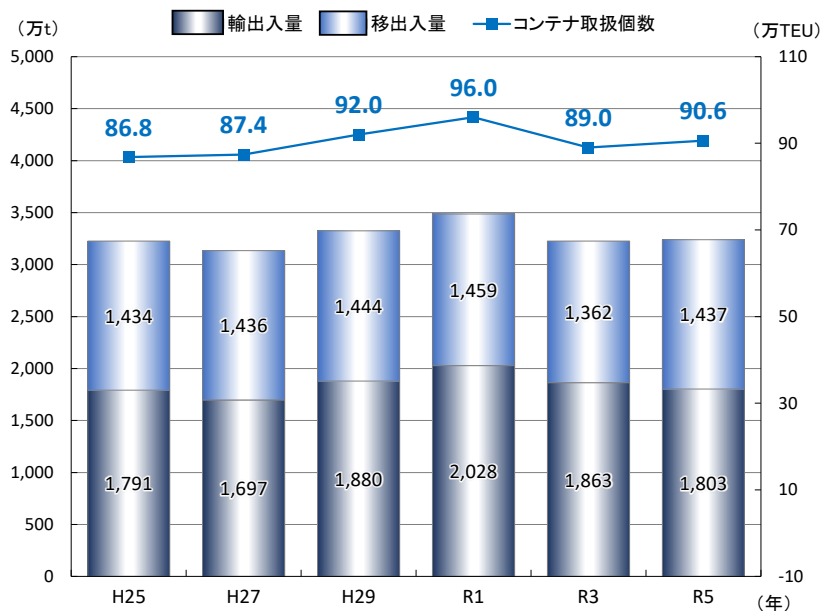


物流

■ 貨物量・コンテナ量

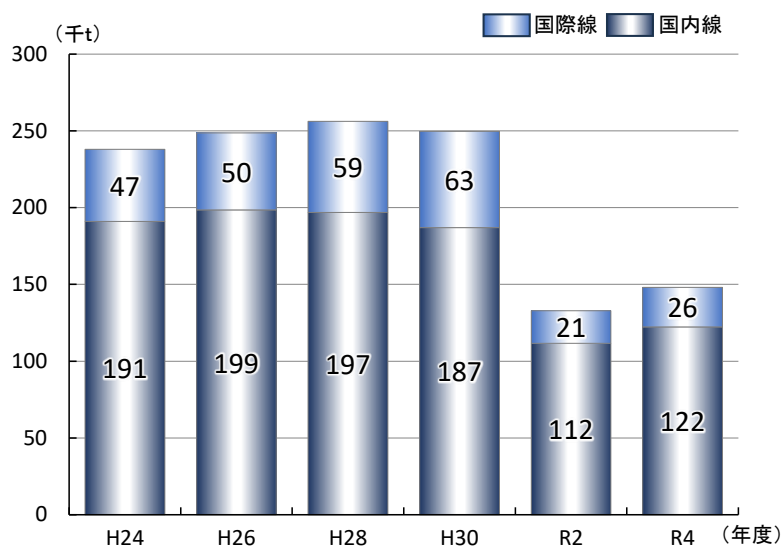
博多港における貨物量の取り扱いについては、ほぼ横ばいとなっており、福岡空港については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大きく減少したものの、令和4年度は若干回復しています。

【海上輸出入貨物量・国際海上コンテナ量の推移】



資料：令和5年博多港統計年報

【福岡空港の貨物取扱量の推移】



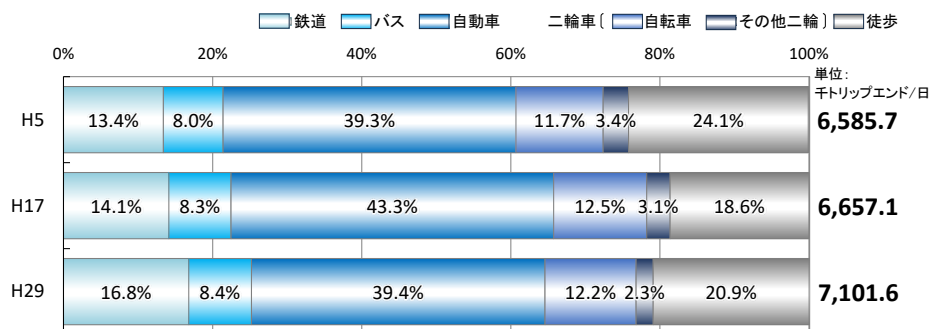
資料：暦年・年度別空港管理状況調書

自動車・自転車

自動車・自転車利用割合

トリップ数全体(人の動き)が増加する中、自転車利用の割合は、ほぼ横ばい、鉄道やバスの割合は増加、自動車利用の割合は減少しています。

【交通手段別の動きの変化】

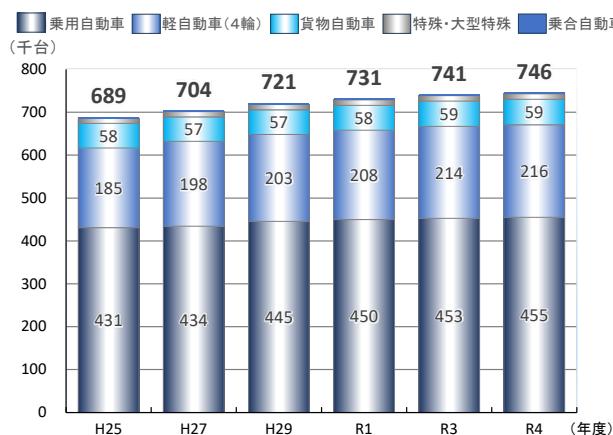


資料: 北部九州圏パーソントリップ調査

自動車保有台数

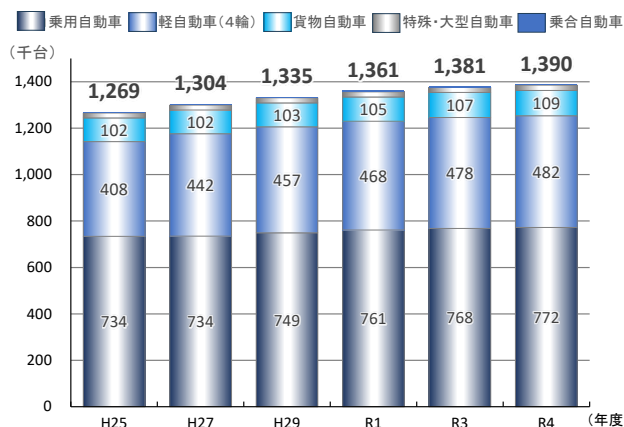
福岡市・都市圏ともに、自動車保有台数は年々増加しており、令和4年度末で約75万台(福岡市)、約140万台(都市圏)となっています。車種別に見ると、特に軽自動車が増加しています。

【自動車保有台数の推移(福岡市)】



資料: 九州運輸局

【自動車保有台数の推移(都市圏)】



資料: 九州運輸局

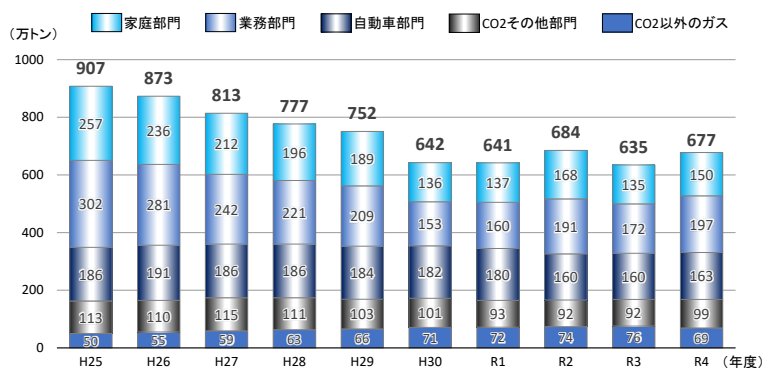
環境・気候

二酸化炭素排出量

自動車部門の二酸化炭素排出量は、令和元年度まで横ばいで推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降減少しています。

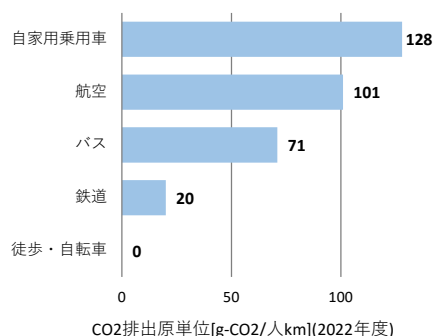
また、1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の排出量は、自家用自動車が最も多くなっています。

【市内の温室効果ガス排出量の推移】



資料：福岡市環境局

【1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の排出量】



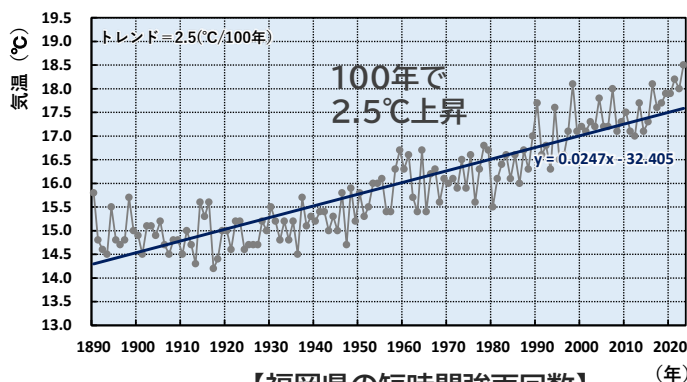
資料：国土交通省

気候

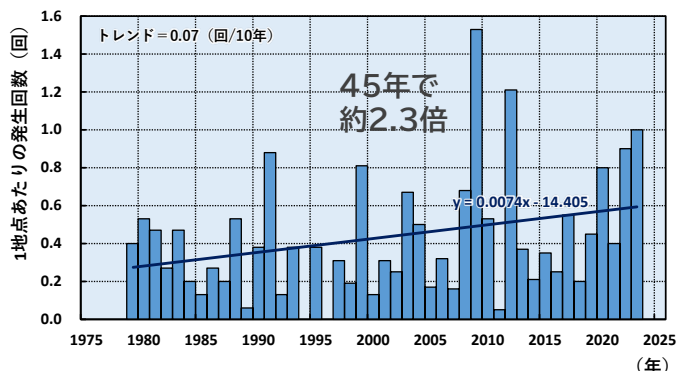
平均気温は増加傾向となっており、直近100年辺り2.5℃上昇しています。

気温上昇の影響により大雨も増加しており、短時間強雨(50mm以上/1h)の回数は直近45年間で約2.3倍になっています。

【福岡県の平均気温】



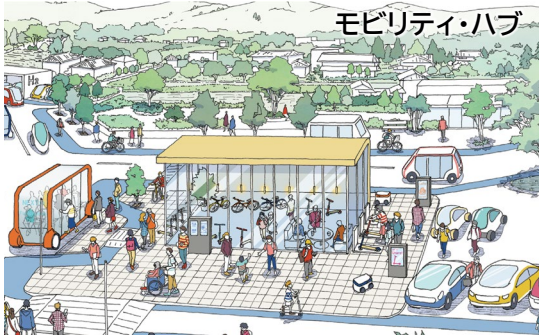
【福岡県の短時間強雨回数】



新たなモビリティ

新たなモビリティサービス

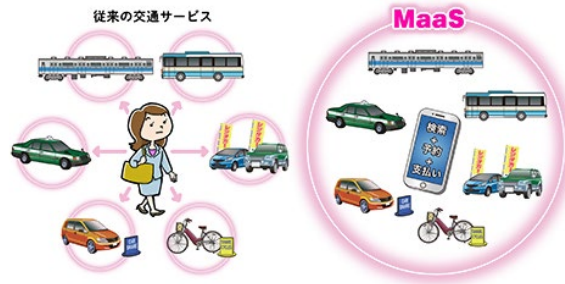
交通機関の利用拠点や人々の交流の場として期待されるモビリティハブや自動運転など、技術革新等を背景として新たなモビリティサービスに対する動きが活発になってきています。



資料：国土交通省
道路政策ビジョン2040



資料：国土交通省
WISENET2050・政策集



資料：政府広報オンライン

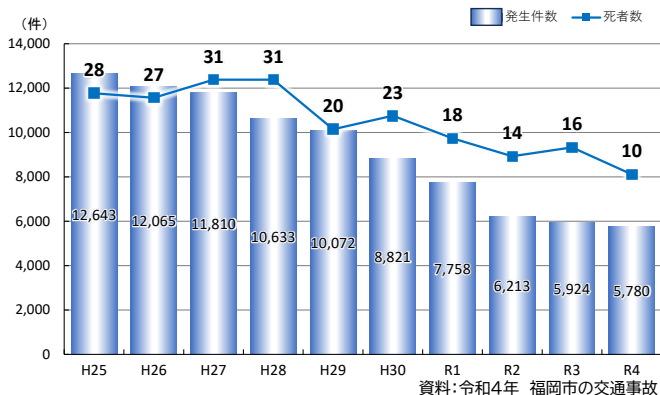
交通事故

交通事故発生件数

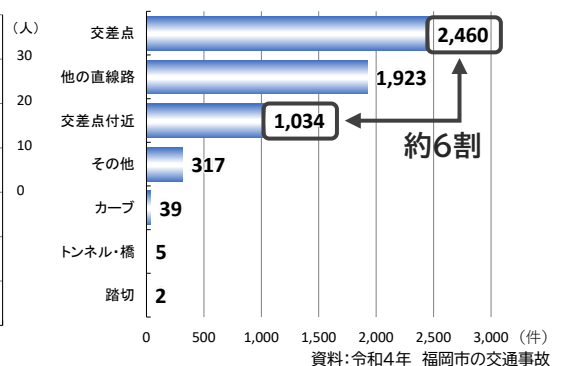
市内の交通事故件数及び死者数は減少傾向となっています。

また、令和4年における交通事故のうち、交差点や交差点付近での事故件数が約6割となっています。

【交通事故発生件数と死者数の推移】



【道路形状別交通事故発生件数】

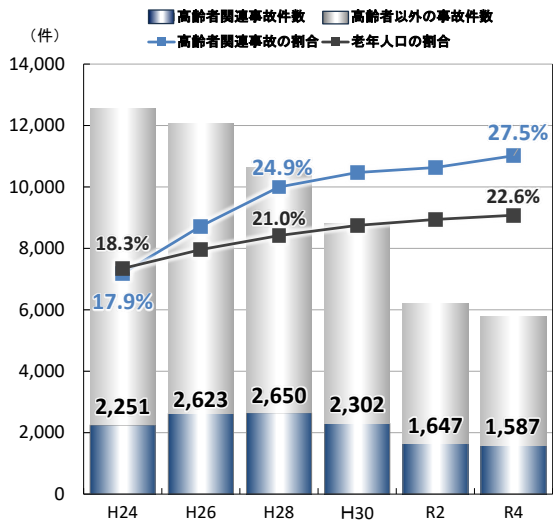


■ 年代別の交通事故割合、道路形状別交通事故発生件数

高齢者(65歳以上)関連事故の割合は、増加傾向となっており、年少者(15歳未満)関連事故割合は、横ばいで推移しています。

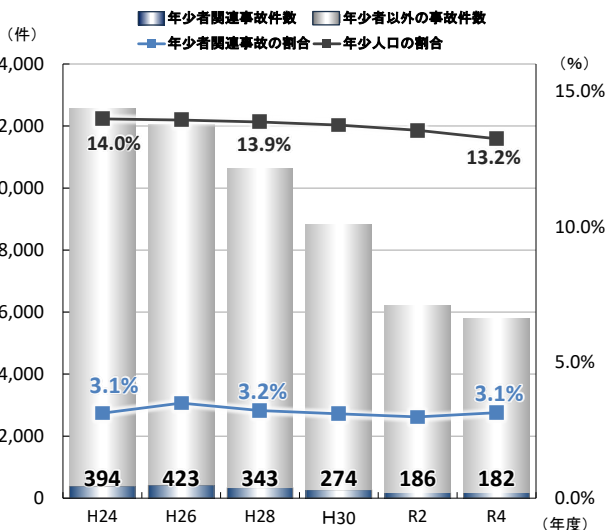
【高齢者・年少者関連の交通事故発生件数の推移】

【高齢者】



資料：福岡市市民局
資料：福岡市統計書

【年少者】

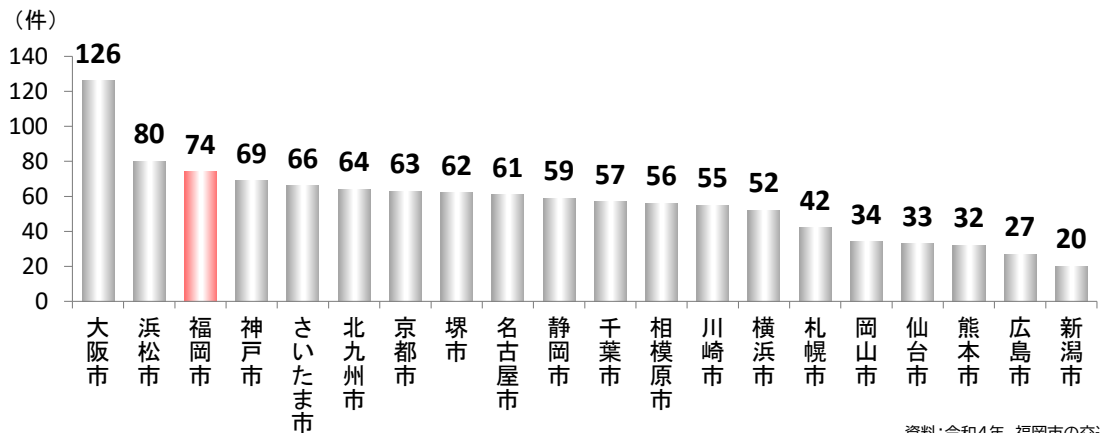


資料：福岡市市民局
資料：福岡市統計書

■ 自動車1万台あたりの交通事故件数

福岡市の自動車1万台あたりの事故発生件数は、大阪市や浜松市に次いで、ワースト3位となっています。

【自動車1万台あたりの交通事故件数(R4年政令市比較)】



資料：令和4年 福岡市の交通事故

防災

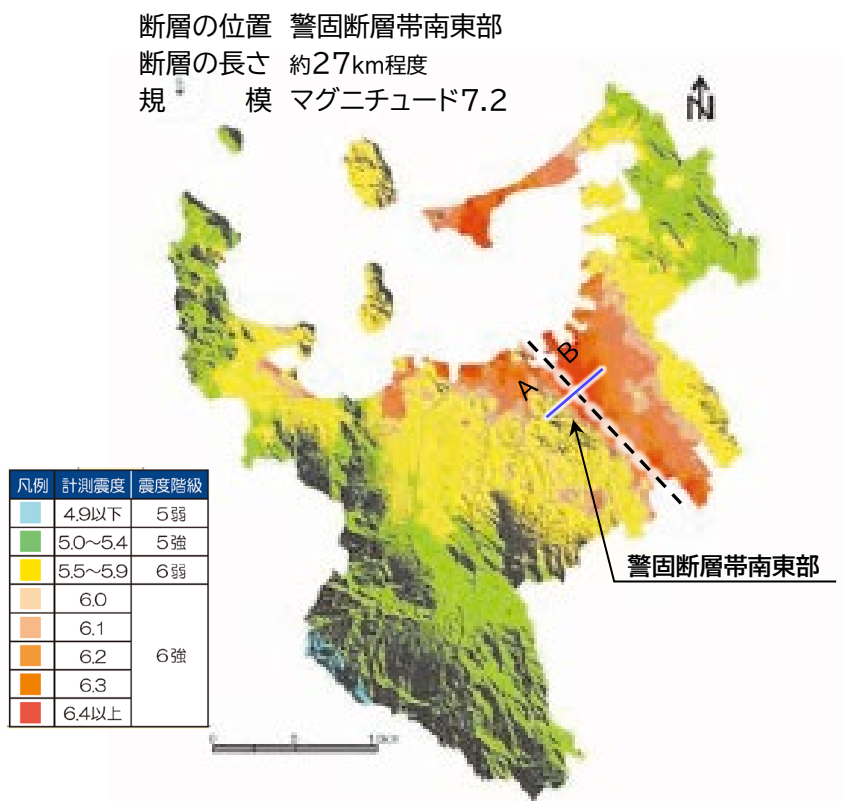
■ 自然災害への備え

福岡市では、平成17年3月に発生した福岡県西方沖地震により、法面の崩壊や舗装の隆起などの被害が発生しました。警固断層帯南東部では、今後30年以内に地震が発生する確率は0.3%～6%と言われており、国内の主な活断層の中では高くなっています。

令和6年1月に発生した能登半島地震では、土砂崩れや道路の陥没などによって多数の通行止めなどにより、救助や支援の手が届きにくい状況になるとともに、水道や下水道などの復旧に期間を要しています。

また、令和元年9月に発生した台風15号では、千葉市を中心に電柱約2,000本が倒壊、最大約93万件の停電が発生し、停電の解消に約2週間を要しました。

【警固断層帯南東部で地震が起きた場合】



資料：福岡市揺れやすさマップパンフレット

【令和6年 能登半島地震による道路崩落】



資料：石川県

【令和元年 台風15号による電柱倒壊】



資料：千葉県

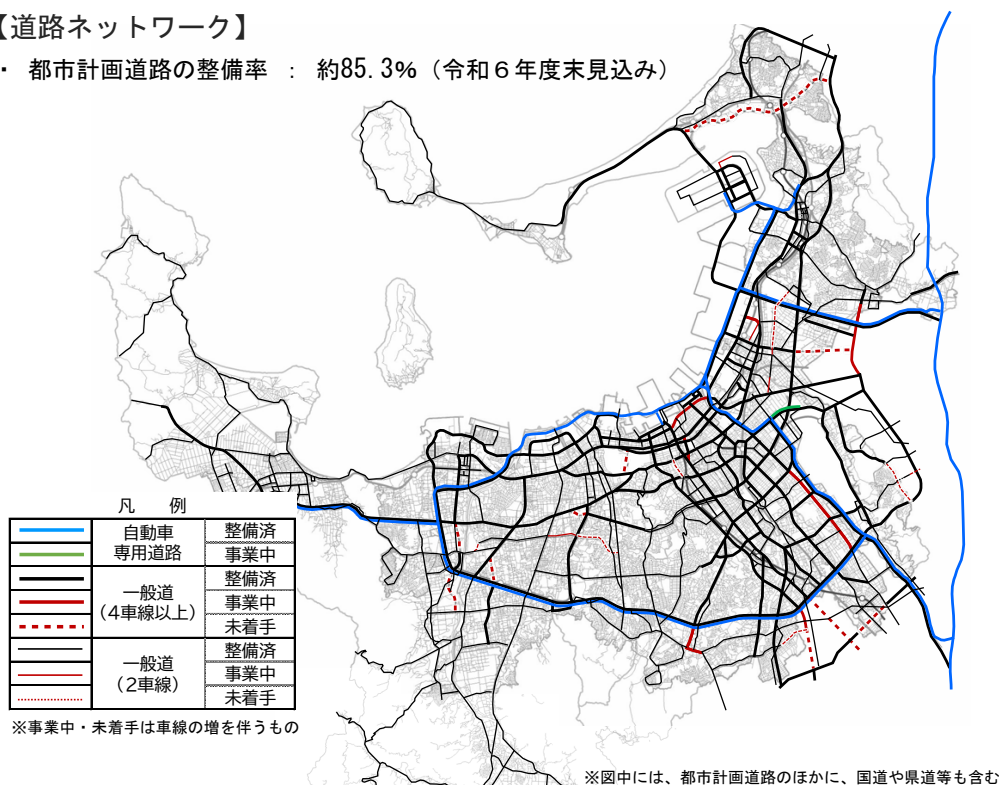
道路状況

■ 道路ネットワーク、地域の主要渋滞箇所

福岡外環状道路や都市高速道路をはじめとした、都市計画道路などの整備により、放射環状型の幹線道路ネットワークの形成が進んできたものの、市内の一部においては、依然として渋滞が発生しています。

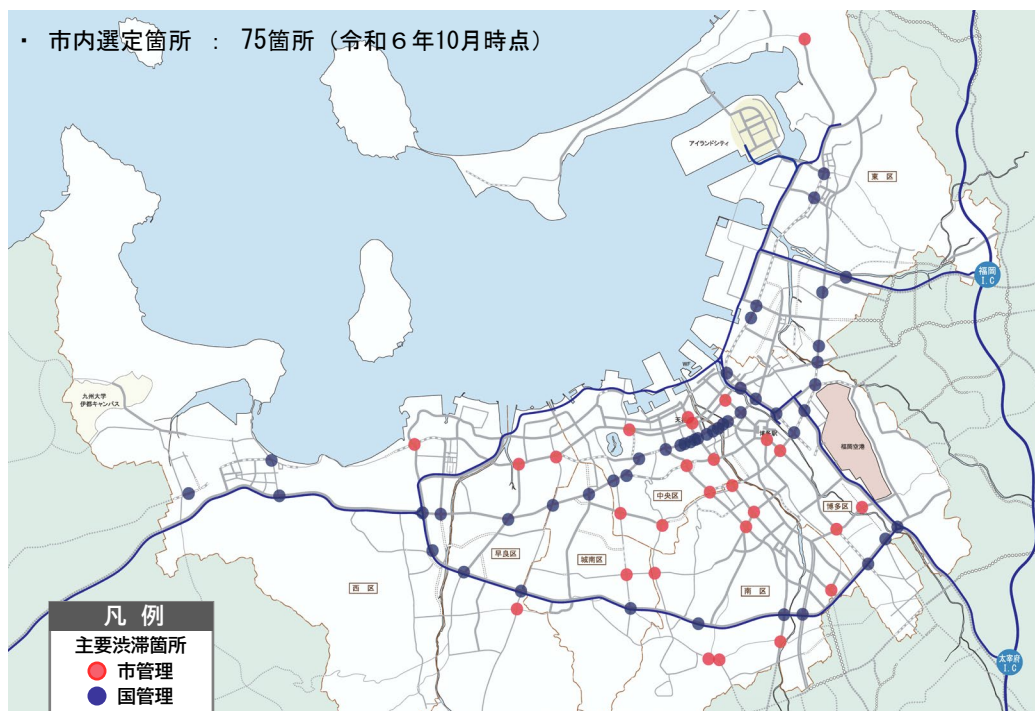
【道路ネットワーク】

- ・ 都市計画道路の整備率：約85.3%（令和6年度末見込み）



【地域の主要渋滞箇所】

- ・ 市内選定箇所：75箇所（令和6年10月時点）



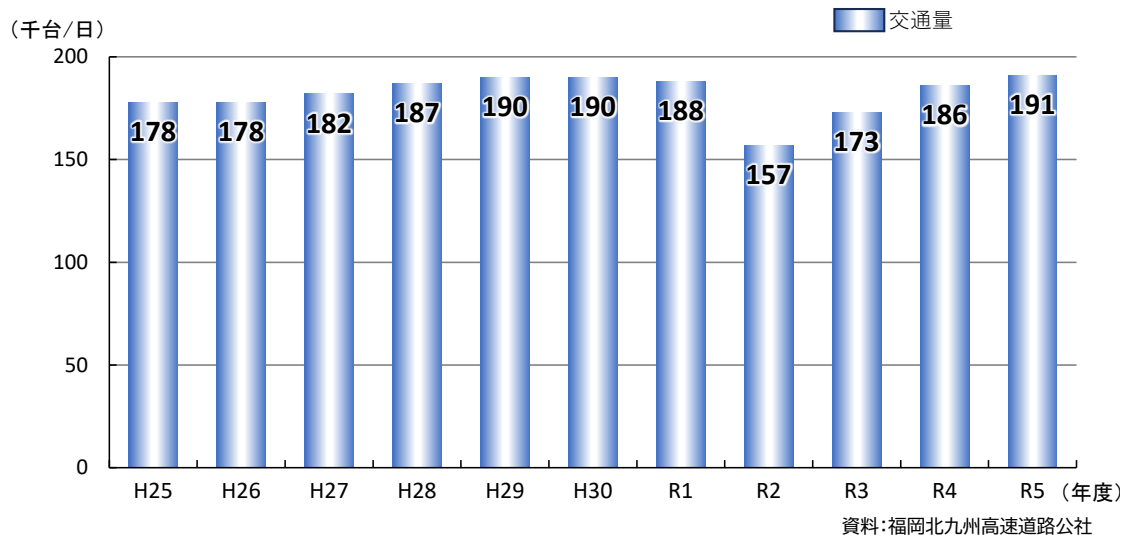
資料:福岡県交通渋滞対策協議会資料を基に福岡市作成

道路状況

都市高速道路の交通状況

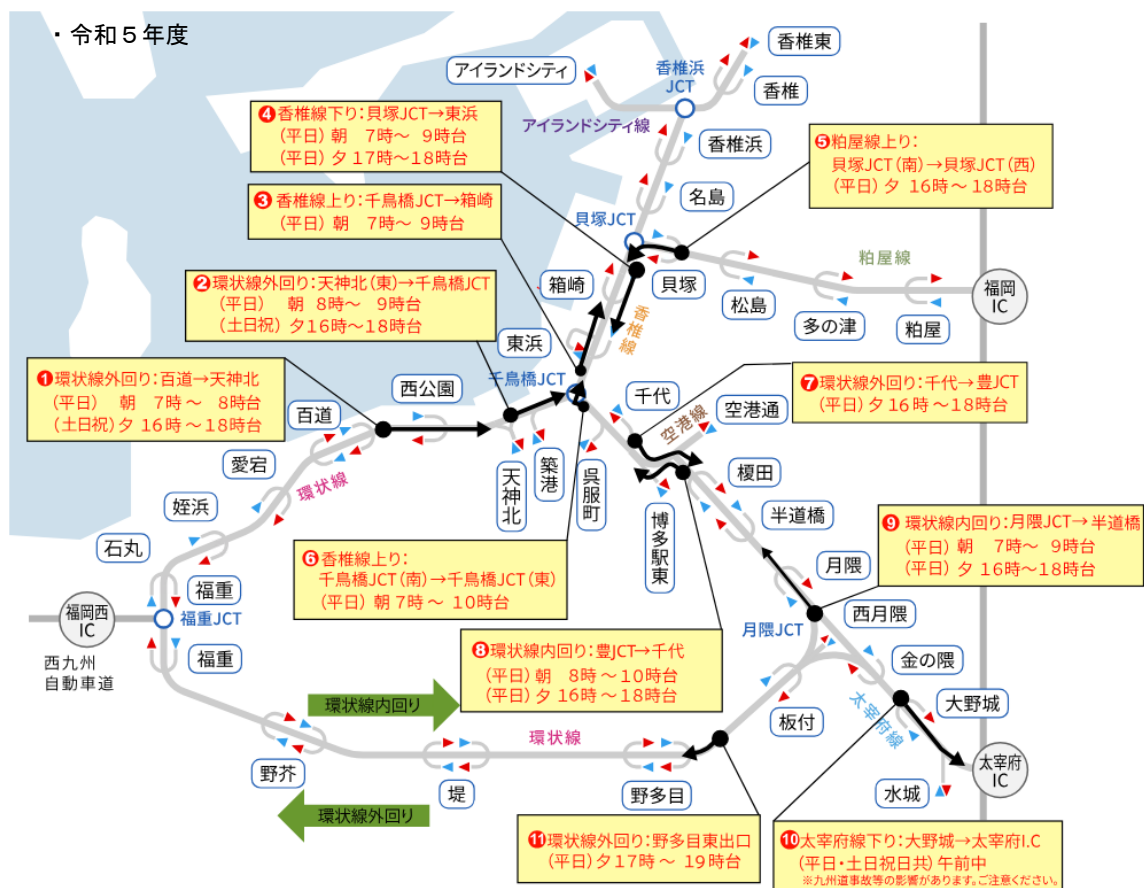
福岡都市高速道路の交通量は、これまで増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は大きく減少したものの、令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大前の水準まで回復しています。

【交通量の推移】



【主要渋滞箇所】

・令和5年度

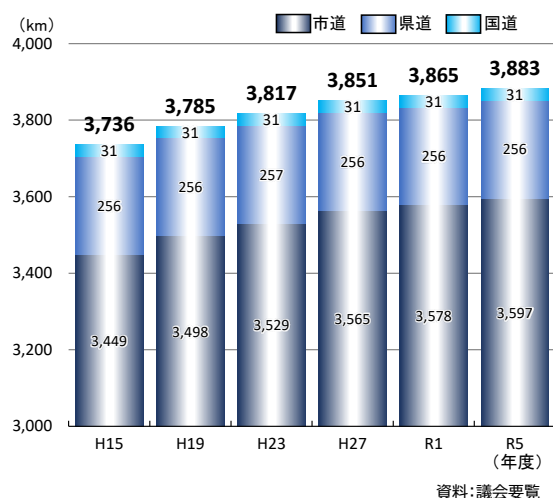


管理道路

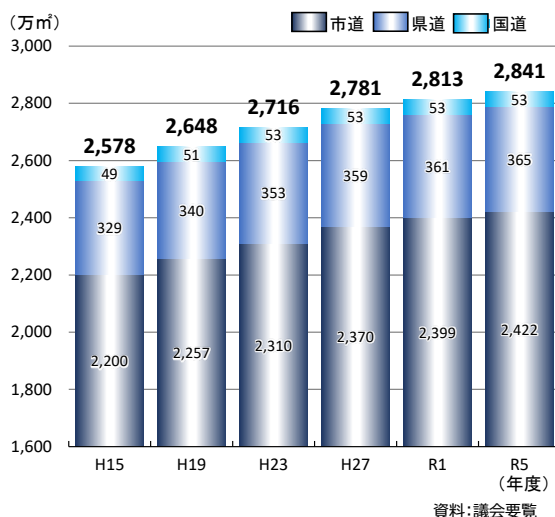
道路の管理延長・面積

市が管理する道路の延長・面積は年々増加しており、約3,900km・約2,800万㎡に達しています。

【道路延長】



【道路面積】

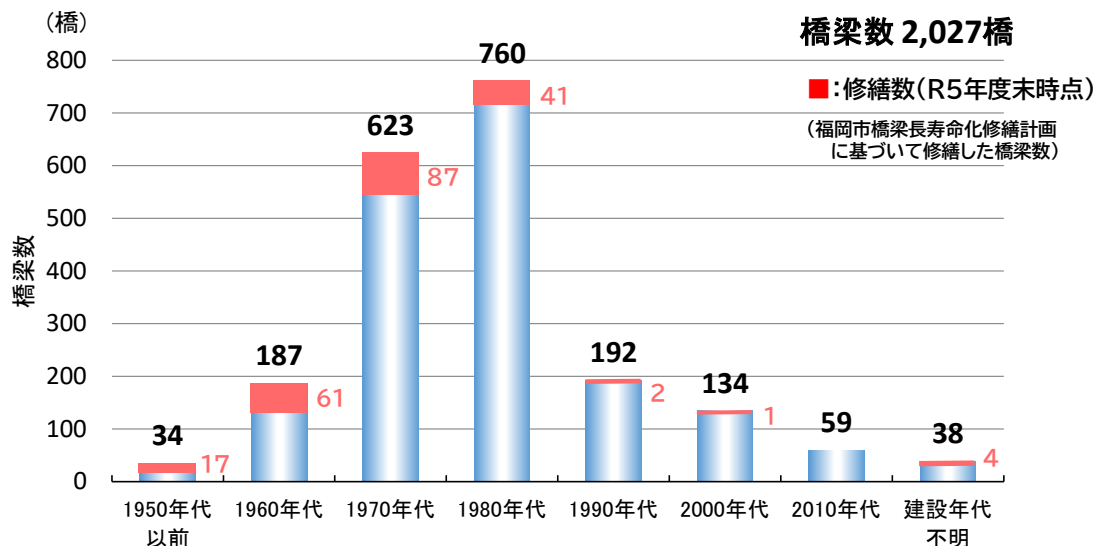


施設の老朽化

橋梁の老朽化

福岡市が管理する橋梁は、約2,000橋にのぼり、これらの橋梁は、1970年代から1980年代の高度経済成長期に建設されたものが多い状況となっています。

【建設年代別の橋梁数】



資料：福岡市